
神山 備の取扱説明書

神山 備

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神山 備の取扱説明書

【Nコード】

N9245X

【作者名】

神山 備

【あらすじ】

某所で綴っていた「こうやまたすくの作り方」を含めて、つらつらと私自身の執筆その他のアホなまでの拘りだとかを書いていきます。

現在、移行中でサイトと、もう一箇所掲載されております。そのうち、オリジナルも登場する予定です。

たすくの脳内はいつもアフレコ状態

皆さんがどんな書き方をされているのかは分かりませんが、私の場合はまずキャラクターを設定します。

年齢・体格・容姿・環境：それらのものを設定したら、舞台を用意し、キャラクターをそこに放置します。

そしてその“役者”が動くのを実況するという手法で書いているんです。

この際に重要なのはキャラの声。

アニオタたすくの頭の中にはとんでもない数の声優様の声がインプットされており、そのときのキャラに応じてそのキャラの声として聞こえてくるんです。

ちなみに「切り取られた青空」の板倉加奈子は川澄綾子さん（のだめカンタービレの野田恵）綿貫亮平は小西克幸さん（スキップビーの敦賀蓮）とかいう具合に：ブログの方では「青空」の全出演者の声を書いて失笑を買いました。

実は、これを某所で書いたときにはこれ以上のお名前を出さなかったんですが、後日書いていた全作品の主要キャラを大公開。

それがコレです。

完全に一部の人にしかウケないネタだと思えますが……

全て敬称を省かせていただきました。予めお詫び申し上げます。

まず、「切り取られた青空」（いを含む）から……

これはすべてのキャラに声優さんが付いているので、全部出せます。

板倉加奈子ー川澄綾子

板倉修司ー森久保祥太郎

板倉陸ー川上とも子

板倉瞳ー折笠富美子

綿貫亮平ー小西克幸

設楽香織ー皆口裕子

設楽詩織ー篠原恵美

Tomさんー鳥海浩輔

うららさんー皆川純子

（堀木）俊樹ー三木眞一郎

「遠い旋律」

三輪さくらー久川綾

坪内高広ー山口勝平

松野芳治ー小西克幸

（野江恵実ーリア友）

「満月に焦がれて」

木村洋介ー置鮎龍太郎

木村小百合ー

桜木弘毅ー関俊彦

桜木圭子ー冬馬由美

木村乃笑留ー井上麻里奈

桜木周人ー中村悠一

「パラレル」

倉本（飯塚）夏海ーチェ・ジウ

結城龍太郎ー保志総一郎

武田康文ー佐々木望

（中谷小夜子ーリア友）

飯塚雅彦ー石塚英彦

結城志穂ー中原麻衣

「ハムケーオジッ ハムケ イッソ」

配役なし

「my precious」「precious dream」（

「パラレル」のメンバーは割愛）

梁原健史ー小野大輔

結城総一郎ー堀内賢雄

妙子ー（声は確かに聞こえてるんですが、どなたかお名前分ならず）

「Future」（これも前作のメンバーは割愛）

飯塚未来ー渡辺美佐

飯塚明日香ーペ・ドウナ

結城秀一郎ー各父親と同じ声で

ジェラールー大塚明夫

「赤い涙」

根本昴ー田中真弓

笹川樹ー日高のり子

笹川京介ー寺田農

安田一成ー神奈延年

「交響楽」「ボクのプレシヤスブルー」（「遠い旋律」メンバーは

割愛)

笹本（坪内）久美子―三石琴乃

笹本智也―櫻井孝宏

笹本純輝―山口勝平

松野治人―小林由美子

松野楓―釘宮理恵

「バニシング・ポイント」

寺内衛―安元洋貴

名村博美―根谷美智子

名村順子―大原さやか

曳津信輔―遊佐浩二

北村冴子―キョン・ミリ

「道の先には……」

宮本美久―宮田幸季

鮎川幸太郎―置鮎龍太郎

マッシュ・カール―杉田智和

（エリーサ・C・L・ガッシュタルト）―水樹奈々

谷山薫―森永理加

皆様のイメージを崩す配役だったらごめんなさい。しかし、書きながら自分で呆けるほど、すごい人数の声優さんが出てきて自分で笑ってしまいました。

この一年で劇的に変わったことー執筆スタイル

私の書き方がここ一年前からがらっと変わりました。

それは、ダイレクトアタックを止めたこと。

一年前に「ポメラ」を買うまでの私は、ダイレクトアタックーブログやポータルサイトに直接入力ーしていました。

なぜかと言うと、長時間筆記用具を持ちたくないからです。たすくは左利きを子供の頃に矯正され、右手で筆記用具を持ちます。でも、んな右手はすぐに疲れて攣ってくるんです。

ただ、パソコンのキーボードも、右を多用するようにできていると言えはそうなんですが、疲労度は手書きの比ではありません。

一応、不特定多数の方に見ていただくのだし……ワードで下原なんてことも考えましたが、結局Webで載せるときに絶対に変わるの
で、結局一緒じゃないかと思ってたんです。

最近はこちらが初稿（サイトは同時進行です）というものも増えましたが、大体は別ポータルからの移行^{トランス}

たかが、ブログ（当時）やポータルからここに移動させるだけの作業なのに、原稿が伸びる伸びる……まるでトルコアイスのごとくに伸びるんです。

（コピペを使えばいいのに、パソ鶏頭の私は、それを習得するのにかなり時間を食ってしまっていました）

ただ、それをする、結局一から打つので誤植が山と積まれることになったりします。

某所では、ある作品に「折角素晴らしいのに勿体ないから」と、あまたの誤植を一覧表でいただきました。

現在はポメラで執筆。これは、パソほどかさばらないので、電車で実家を往復するときにと買いました。最近では、仕事の休憩時間にも打っていますが。こちらにはマイクロSDカードでコピペします。その際に、誤植と文字と表現ブレをチェックしつつUPします。

ただ、サブタイトルはこの場でつけます。理由はポメラちゃんが入力順にかかわらず、五十音順でソートして記事を並べてしまうからです。タイトル＋サブタイトルでも良いんですが、長いタイトルだと字数オーバーになりそうで、タイトル＋通し番号で入れているんです。

そのサブタイをつけ忘れて、投稿ボタンを押すこと数知れず……原稿は全部消えちゃいますよね。一応またポメラちゃんから呼び出せば済むことなんですが、修正箇所が多いときにわりとやっちゃうんですよ。

「ああ、またこんだけ手直しせにゃ……」
と思うと正直凹んでしまいます。

それでも、誤植は続くよどこまでもうっという、粗忽者ですんで、ポメラ後の作品をそろそろ見直したいなあとは思ってはいるのですが。

それをする、また、トルコアイス捏ねちゃうかなあと思う、今日この頃です。

サブーいタイトルもあつたりしますが……

皆さん、連載作品にサブタイトルはおつけでしょうか。

再開第一作、「切り取られた青空」をブログで書いていた時、ご丁寧に全部一話ずつサブタイトルを頑張つてつけたんですよ。全31話全て……

そしたら、面倒臭くなって、「切り取られた青空ーいとー」「遠い旋律」「満月に焦がれて」は最初サブタイなしで書いていました。

しかし、ポータルにトランスするとき、字数制限が厳しかったり、ここはサブタイトルがないと入力できませんし。で、「遠い旋律」は数字で入れてみたんです。でも、数字は味気ないなど。

そういうわけで、「いと」からはトランスしがてらサブタイトルを冠し、「満月に焦がれて」「遠い旋律」も後日サブタイトルを付けました。

「パラレル」では長い話なんで、対タイトルなんてものまで作って遊んでしまいました。

例えば、

「R」からの解放↓「R」への回帰・同じではない未来↓同じではなかった未来・愛してる?↓それでも…愛してる等。

でも、このサブタイトルが曲者で、ネタバレしないように、でも内容を醸し出す様になって考えると名前以上に難しい。

「交響楽」「赤ちゃんパニック」など、最初サブタイトルが中々決

まらず、とりあえず数字で揚げたものもありましたが、「赤ちゃんパニック」の時にびっくり、サブタイが決まるまで鳴かず飛ばずだったアクセス数が、（それでも人気の方にすれば微々たる量ですけど）倍加したんです。

数字だけのタイトルですごいアクセス数を稼いでらっしゃる方もたくさんおいですが、凡人はやれることをやっときましようと言うことで、今日もサブタイに命を懸けるたすくなのでした。（ただオタクなだけという見方ももちろんありますけどね）

中には、書いてしまうと内容ちゃんばれってサブタイで躊躇することもありますが、完結して改めてそれを見ると、それだけで物語の流れが見えて、なかなか感無量でもあります。

で、私が選ぶベストサブタイトルトップ3……なんだろう？

オトウサマ（Future）

融け出した万年雪（my precious）

山笑う（再び桜花笑う季）ですかね。

一人称はキャラなりきりの証し!?

私の作品……ほとんどが一人称で書かれています。

で、「切り取られた青空」では女性一人称に（ブログで日記を付けるがごとくスタート）したがために、相手方の亮平の気持ちやその後の事情が一切書けず、結局「切り取られた青空ーいとー」を書くはめに。

大人の男の一人称なんて書けるのか？ と当時は不安でしたけど、書いてみるとコレが結構楽しかった。

今ではたぶん、男性主人公の方が数は上回っていると思います（正確に数えないのがたすくらしいですけど）

それもこれも私のなりきりのなせる業。「いと」の結婚部分ではテンションをあげまくり、「遠い旋律」「指輪の記憶」「my precious」ではキャラに引きずられて体調不良を起こす。

なんだかなあと思って三人称に挑戦するも、「満月に焦がれて」はそうでもないですが、「Parallel」は三人称の顔はしているけど、どう考えてもあれは一人称。私には三人称はムリなのかもしれないなんて昨今は開き直ってるかもしれません。「再び桜花笑う季」以降も一人称が圧倒的に多いです。

「オラトリオ」シリーズに至っては、ついに話によって語り部が違うという荒技に出してしまいました。

（でもコレ、ネットでは結構使われている技法ですよ）

私が一人称にこだわるのは相手方を謎にしたいからです。知ってて

思わせぶりに伏線を張る技量がないもんですから、私は主人公と一緒に首をかしげて、一緒にネタばれの際ビックリしまくる訳です。

ただ、死にキャラをメインで書くとそいつに『呼ばれてしまう』らしく、本当に体調を崩します。それを見かねたリア友ちゃんの一言で「ハムケゝオジツ ハムケ イッソ」が生まれたりもしましたが。

来年マジで50歳になるので、あまり無茶をするのは止めようと一応思ったりしていますし、年なんでしょうかね、昔みたく根詰められなくなりました。（なんだか寂しい話になってきたなあ）

今後もよほど何かの縛りがない限り、たすくは一人称で書き続けると思われます。

自己満足のためには、努力は惜しみません

小説が完結したとき、私がまずやること……それは印刷です。

私にとって、自分の作品を製本してやっとその作品が完成した事になるんです。

なんせ私は現在49歳、堂々たるアラフィフなのです。パソコンに明るいわけではありませんが、自分が必要な機能だけは何とか使いこなして小説を更新しています。

ただ……一番見せたい昔の物書き仲間ってば軒並みそういうのに弱くて、半分はパソコンすら持っておりません。そんなリア友たちに、今の私の勇士？ を見てもらうには、頑張って印刷するっきゃないんですよ。

でも、私ってオタですから。コピーをそのまま渡すなんて失礼なことできません。きちんと製本する。そのために製本用の横ステープラー（しかし、ちょっと日和って30枚タイプ）まで買い込みました。

ここでの挿絵表示法がわからず、貼ってませんが表紙にも拘ってます。

まだ全部表示してないんですが、サイトの各作品のトップページに揭示していくつもりです。

次は、製本の仕方です。

「私の本」はA5サイズ。あまり字が小さいと、近眼ですから老眼鏡は必要ありませんが、眼鏡を外して読まなければならないし、A4を半分にすれば良い訳ですから、カットの必要がない。素人がカットした紙は揃ってなくて、紙詰まりの原因になりますから。

最初は、ブログとかポータルの配信画面を印刷していました。

そして、それを自作の白紙の本ベースに貼り付けるという方法。それだとページ繰りを考えなくていいですよ。

でも、この方法では、かなり良いノリを使っても暖房などを使用すると貼ったはずの紙がはがれてくる。

なので、それを崩さないように両面コピーした時期もありました。ワードに製本用の印刷機能もありますが、文字ポイントを下げても文字の隙間が大きいんじゃないでしょうか。紙数が嵩むんです。

嵩むと（最初に使用していたのが10枚タイプだったのもあり）止まらないんです。

以後、30枚までOKのステープラーを買い込んだこと、某ポータルがスマフォに対応してセンタリング方式になったこと、サイト化して原稿幅が変わったことなどいろいろあって、今のワード落としとなりました。

そうしてできた本ベースに、ラベルソフトから表紙になるテンプレートを探して印刷します。普通のコピー用紙に印刷して、ラミネーターでパウチします。

このためにラミネーターも、わざわざ買いました。

実は、怒られると思っていたこの買い物、一番喜んだのは夫でした。夫も仕事柄必要で、私を買わなくても早晚買うつもりだったらしいと聞いて、正直脱力しました。

後日、私の仕事にもこのラミネーターは大活躍。無駄な買い物ではなかったと思っています。

これを90度反転させることができるステープラーで止めて出来上がります。

苦勞してつくったそれは、それに値する出来映え。なので、周りの方がどんなに呆れようとも「世界で一冊の私家版」作り、たぶんこれからも止められないでしょう。

カナンの地を離れて

今回はペンネームのことなど……

私、神山備はこうやまたすくと読みます。一応、my pageには読みは付されておりますが、作品トップページとか、書かせていただいた感想などには漢字のまままで表記されので、みなさんこいつ誰？ 読みもわかんねーし。と思われているかも知れません。

某所では本気で男と間違ってたっしやった方もおられたので、なんかしつこくおばさんと書き込むクセができました。

で、この神山備という名前は、聖書のアドナイ・エレという言葉（主の山に備えあり）から取りました。私、30年越しのクリスチャンです。

「聖画」や「立証ー25年目のラブレター」「バニシング・ポイント」などのキリスト教がバックボーンになっている作品も発表しておりますが、なんせ、創作再開の第一作目の「切り取られた青空」がアレですから、カミングアウトしたら引かれるかともか思っちゃってます。

実は私がブログデビューしたのは、なんと信仰ブログなんです。日々の信仰生活を私のドジ話を含めて書いてました。そのブログタイトルも「こうやまたすくのアドナイ・エレ」どーでもいいですが、よくよく考えると、頭痛が痛いって言うてるようなタイトルであります。

その後、大手カタログ販売会社の押しに負けてダイエット食品を大

量買いする羽目になり、これは御心なんじゃないかと、ランキングにまで参加してすっかりダイエットブログにリニョアル。

そんなある日、ひょんなことから、そのダイブロで知り合った既婚アラフォー女性ブロガー（私もその時はギリアラフォーだった）3人で恋愛がダイエットの妙薬だって話で大いに盛り上がったんですよ。

「けどさあ、今更危ない恋なんかできないじゃん」と、P子ちゃん。

「ロマンスなんて結婚前の想い出の中でしかないよ」と、Nちゃん。

「ま、妄想で理想の彼氏でも作るしかないか。」と、私。昔小説書いてたからねえ……って、ぼそっとつぶやいた（書いた）ら、二人が「書けっ！」

って食いついてきた。さらに、

「内緒で書いても解かんないでしょ。ここに載せなよ」とダイブロ上で小説書けなんて言うのまで現れて…

そう言うのに絆されて構想を練りだして浮かんできたのがあの「切り取られた青空」ダイブロのみんなに楽しんでもらうにはってネット恋愛をテーマに選んだは良いが、いきなり泥沼にはまり込んでしまった展開を、元々信仰ブログとして立ちあげた場所に揚げるのは甚だ忍びなく……

で、別のプロバイダーで小説オンリーのブログを立ち上げることとなりました。

とりあえず、だーっと、書いて仲間内に見てもらえば良いやって宣伝もしなかったし、そのブログのカテゴリーランキング以外はなにも付けてなかった当時のブログ。

なのに、そんな深海魚なブログを新着で見て訪問してくださり、今

でも仲良くしてくださる奇特なFさん。小説用のテンプレートを紹介してくださったり、彼女経由で他の方の作品にたくさん触れられるようになったのです。

ポータルサイトがあることも彼女が教えてくれました。そしてあるサイトに登録、志を同じくする方にたくさん会えることができました。

今、その方々との交流が、私の創作の支えとなっています。

私のブログのタイトルは

「私のベテル〜ゆめのきざし〜」

で、現在はエッセイとかお知らせなどの雑記帳になっています。

ベテルとは創世記でヤコブが長子の権限を兄エサウから略奪しようとして、エサウの怒りを買ひ、ハランという母の実家に逃げて行く際、野宿した場所の地名。

全部を欲したために全てを失ったヤコブは傷心の中、石を枕にして眠ります。

しかし、その夢でヤコブは天使が梯子を何度も行き来する姿を見ます。

「僕は何かも失ったと思っていた。神様からも見捨てられたと思っていた。でも、神様は僕をお見捨てではなかった。だって、ここも神様の国なんだから」

目を覚ましたヤコブは、そう言って、その石の前で首をたれ、感謝の祈りをささげたのでした。

ここも神の御国なれば……クリスチャンテイストまるでゼロのキャラたちを走らせていることも許してくださる神様に感謝をしつつ、たすくは今日も書き続けています。

網の上にも三年

本日、（10月30日）たすくはめでたく？ ネット物書き三年を迎えました。

「青空」と「いと」を書き終えたとき、しばらく書かないっ！ っ
て思いました。「いと」のラスト直前に職場で倒れて、「このまま
じゃ寿命縮まっちゃう」って正直思いましたから。

ま、大体拾った命ですから、またすぐに落っことしそうなんですけ
どね。

とりあえず、頭にあった「旋律」だけ書き終えてって、すごいスピ
ード（12日）で書き終えたら、「満月」の構想が……

しかし、ノリノリで「満月」を書き終えた私は、執筆直後に高広の
名前が大量に高弘になっているという事件（私には事件です）が起
きて、ずーんと落ち込み。約一ヶ月、それらの推敲だけで過ぎしま
した。

だけど、「満月」を書き終える頃には、「パラレル」のビジョンが
すでに私の頭を席捲していたんです。

で、「やっぱり書きたい」と思った1ヶ月後、「パラレル」を開始。
以降、「指輪の記憶」（最初は別物としてカテゴリー分けされてい
ました）「my precious」「precious dream」「ハムケ」（これは事情でシリーズには入れてないんですが、
関連があります）「Future」と、次々書き続け、なんと約8
ヶ月も「パラレル」シリーズに浸かり込んで、気がついたらその年
もう終わりになっていました。

で、「パラレル」シリーズですがのたすくも力石戦のジョーの様に燃え尽きるか？　と思いきや、完結直前にある方から「SF短編賞」のお誘いがあり、お祭り女たすく、浅慮なので受けてしまいました。

受けてから、後悔しました。SFなんて経験ゼロ。元々往年の「少年ドラマシリーズ」は大好きでしたが、科学的知識なんてまるでありません。

それでも、慣れないSFと言う世界に汗をかきながら、誘ってくださった方々に報いるべく、「赤い涙」が生まれました。

同時期に某ポータルでの自主イベントもあり、「赤い涙」で「パラレル」以外のキャラも書けるんだと、ちょっと自信を取り戻した私、初稿では高広ショックで書けなかった「旋律」の続編を書くことができ、それを参加作品に致しました。

そのあと、「旋律」のその後など、怒濤のように溢れる続き妄想。実は「バニシング・ポイント」もある作品のスピノフだったりするのですが。旧作との接点部分がごく少しいので、全く別物として読んで頂いて一向構いませんけど、知っていると「ああ、この人たち」とニヤリと笑えるはず。

その「バニシング・ポイント」も、今回別視点が出てしまって、どこまで芋づる式にするんやと自分でも少々呆れ気味ではあります。

そして、いよいよネタが切れる？　と思ったとき、ある方が名前を入れるとオススメのプロットを作ってくれるソフト、「プロットつくったー」を紹介してくださったんです。で、出てきた

『S男が弟子を従えて冒険する異世界ファンタジー』
と言う言葉にたすくはいたく反応してしまいました。

で、魔法分かんない。世界観なんて作れないとうなりつつ、書いたのが「道の先には……」でした。

そこから出てくる出てくる各キャラのサイドストーリーは、もはやお決まり事かも。私のブログではもはや有名人のリア友雫ちゃんに、「たっちゃんの脳はどんな構造になっとなのやろうね。私には想像つかんに」

と半ば呆れられている昨今です。

そんなわけで、幸か不幸かまだ私の妄想は丸三年たった今も枯渇しておりません。

これからもそんな妄想の垂れ流しにお付き合いくだされば幸いです。

蛙の子は蛙

拙作「彼方へ…」はほぼ実話。あの物語に出てくる真実くんは実は女の子で、称理あぐりと言います。

この称理、通称あぐりんは、私と同じようにデカ女、若い頃の私と同じような職種を希望し、同じように声優オタ……

ま、放送開始時2歳のあぐりに、「金田一少年の事件簿」と「名探偵コナン」を毎週欠かさず見せて情操教育した母が悪いか。

その甲斐あってか？ あぐりんが初めて読めた漢字は何と「殺人事件」、2個目は「犯人」だったんですよね。ネタとしてブログに載せたりしましたが、親としては複雑です。あ、カタカナはかわいく「ポケモン」で覚えましたけど。これもゲーマー母の影響と言えましょうかも。

けど……このあぐりん、中学生までまったく本を読まない子だったんです。アニメは見るけど、コミックスもあまり読まなかった。私のリア友に、「たっちゃんの子なのにね」と言われてきた奴なんですよ。

そのあぐりんがアニメをきっかけに二次（所謂夢小説と言う奴）にはまりました。最初はひたすら読むだけだったんだけど、そのうち書き始めちゃいました。

で、私が某ポータルに登録したとき、彼女も登録したいと言いだしたんです。聞けば、二次じゃなくオリジナル長編を書く。目眩がしたけど、夫のアドで登録させました。

その時ペンネームが必要でしょ。あぐりんは母と違って名付けはあまり好きじゃなく、

「ママ、そのハンドネでさんざんあたしのことネタにしてんでしょ。いいよ、そのままもらっちゃう」

と、何とも短絡的に神山 称理と付けてしまいました。

最初はその名で二次も書いていたんですが、後日やっと二次は別名を冠してくれるようになりました。名前が一緒だと、母としては、ネタにしにくかったので、ちょっとホッとしてます。

ちなみに、その名は苗字まで書いてしまうとしかれるので、名前だけにしますが、凜^{りん}。でも、それって、あぐりんのりんじゃねえの？ やっぱ我が娘、短絡。

親子で物書きをしていると言うと、うらやましがられることも多いけど、娘は母の作品だけは見ようとしませんし、母は娘にログインパスワード（夢小説は細かいパスワードを入れないと開けないタイプがあるでしょ）を教えてもらえません。声優の○○さんの誕生日なんて、知るかいっ！（いや、私の好きな声優さんなら分かるんですけどね）

ただただ、家でパソの争奪戦が繰り広げられるだけです。それに疲れた母はポメラに逃げました。

とまれ、これはあぐりんが幼児の頃には想像もできなかった事態です。『魔女の宅急便』でキキが

『魔女は血で飛ぶのよ』

と言うように、

「モノは血で書くのよ」

というのもしかしたらあるのかもしれない。

1つの作品に100の人生あり

私は短編は書きません。しかも単発で終わることがほとんどなく、見事にシリーズ化して、雨後の筍の如くサイドストーリーが生まれてしまいます。

物語は主人公だけでは生まれません。当然ながら脇キャラがいます。と言うか、私は

『脇キャラに魅力がなきゃ、物語は半分以上死んでいる』
とまで思っている始末です。

そんな脇キャラと言われる人々も、実際に生きていればそれぞれの人生があるわけで、どこまで細部設定しとんねん！？ とブログあとかきでは呆れられたほど、名前しかなかった脇キャラにまで設定が入ることが多いのです。

そして、案の定、そんな脇キャラの妄想が始まってしまい、続編や番外編が生まれてしまうんですね。

一応どれも単品でも読めるようにと心がけてはいますが、私の中ではきっちりつながっているのです、案外と説明不足な所があるかもしれません。

ちなみにその最たる例は「遠い旋律」のブログでのあとがき。最後にちょこつと顔出しただけの芳治の事を書いているのですが、その時点で私翔子と穂波のことをかなり事細かに名前まで入れて既に書いていたのです。

ご存知のように一年後、「再び桜花笑う季」になりました。

「パラレル」では高校・短大とかなりの数の同級生が出てくるんですが、そのうちの何人かのサブストーリーがあります。その中で一番声がデカかったのが健史で、あの「my precious」になりました。

「100人の登場人物がいたら、100の人生があるんだよ。だから、ドラマの最終回ってキャラ総出で終わっちゃうことが多いのかもね」

とは、大作を校了されたあとのFさんの台詞。

「だから、スピノフしちゃう作家さんが多いんだろうね」
私は彼女にそんなコメを送りました。

サブストーリー上等、スピノフ万歳。

「1つの作品に100の人生あり」

結構名言ではないですか？（自画自賛）

たすくは芸人気質？

べつのポータルで、老いをテーマにした作品を読んだときです。私は、古い映画ですが「翔ベイカロスの翼」のワンシーンを思い出していました。

この映画は実際にキグレサーカスでピエロをされていて転落事故で亡くなられた方の実話をもとにした作品で、私は当時ファンクラブにまで入っていたさだまさしさんが主演されるというので、半ば内容そっちのけで見に行ったんですよ。

確かに、映画自体も良かったんですが（もう号泣しちゃいました）私が一番印象に残っているのは、主人公の先輩ピエロ（曾我廼家明蝶さん）が公演先でチンピラにボコ殴りにされるシーン。曾我廼家さんは殴られながらへらへらと笑い続けます。その様子を見たチンピラ達は彼を嘲笑いながら殴り続けます。そこで彼は言うのです。「よお見とくんや。芸人はな、笑われてなんぼや。自分の体削りながら人笑わす……」

その方にコメントを送った後、仕事の行き帰りに必死に記憶を手繰って思い出しました。たぶん、こう言ってたと思います。もう、ワンシーンだけなのに、ものすごい存在感でした。

私は笑わせている訳ではないですが（無闇に泣かせているというご意見もありそうですが）、なりきり書きする中で、時々命を削って書いてるよなあと思うことがあります。メインで死にキャラ書くと必ず倒れますから……（入院まで行ってないのがせめてもの救い）

何でそこまでせんならんねやろうと自分でも思います。だけど、一

旦命を吹き込まれたキャラに魅入られてしまうと、その気持を代弁せずにはおれなくなる。そして、根を詰めて詰めて書きまくり、書き終わるとぷつつん脱力……いい加減もう少し楽な書き方はできんのかって思いますけど、これができやんのですわぁ。

芸のためなら点滴くらいなんでもないやろという芸人（芸人っ！かもね）氣質たすくへの夫からの一昨年の誕生日プレゼントはラミネーター（私買ったんですけど、あとでお金出してくれました）クリスマスプレゼントは、コピー用紙15,000枚でした。

ちなみに、夫は大の活字嫌い、私のはもちろん誰のも読まないので、安心して（？）書けます。

かちとなのなのつぶやき

ウチのOSはウィンドウズ7。発売されてわりとすぐ購入。

別に新しいOSじゃなきゃ嫌だとかそんなことは全くないんです。むしろその逆……ウィンドウズ7に換えたおかげで、愛用していたハングルフォントソフト、使えなくなり、新しいのを買う羽目に。今はダウンロードできるソフトもあるらしいですけど、説明解からのよう。ダウンロードできやん。

ま、読めるけど意味解かないという悲惨な語学力ですし、ここではUniコード使えないから、表示できないんですけどね。

ただね、「Future」の時、おぎと入れただけで予測変換でお義母様、お義父様が出てきてくれたのは嬉しかった。さんと打ったら……でてくるし。

そんなたすくが何故新しいパソを買わねばならなかったのか……しかも自分の金です。

それはパソを夫と意地でも分けたかった一心でした。

たすくはローマ字変換。ワープロ時代はかな変換だったのですが、あぐりんが学校でローマ字変換でパソコンを習うというので、同じ覚えるのなら、ちゃんとしたキータッチ（ブラインドで）覚えた方が良く、タイピングソフトを買ったのです。あのコ○ン。

決してゲーマーたすくがゲームがしたくて買ったのでは……ありませんが。

あぐりんと競い合って打ちまくり、ローマ字変換に変え、現在は推定二級レベルに。

しかし、夫は頑固にかな変換のまま。しかも、パソコンは夫のものですから、当然初期設定をカナ変換にしてある……となるとどうなるか。

私がパソコンで原稿を打ち込もうとする時、毎度プロパティをいじってから書き込みを始めないといけなくなるのです。しかも、ブログコメ返しなどは、一人一人毎度設定を弄らないといけない。

これが結構面倒、そしてストレス……ついつい忘れて「たすく」と入力すると、「かちとなのな」と表示される。ダイブロではかちと打っただけで名前欄にかちとなのなと表示されたほど。

んで、家電量販店のリニューアルに乗じて私がローンを全て払うことで説得、夫とのパソコン住み分けが実現しました。

そして、つい先日……使用している光通信から電話で、ルーターをレンタルで使いませんかとのこと。

先日メールソフトだけが動かなくなったとき、リモートサポートという、こちらが許可すると、電話口のNTTの職員さんが、ネットを通じて直接我が家のそれを直してくれました。今度も、解らなかつたらそこに連絡してくださいとのことで、この鶏頭でも何とか大丈夫そう。

思わず、営業の人に、こちらが「ありがとうございます！」と叫んでしまいました。

これで、難敵あぐりんは無線LANカードを渡して住み分けができます。

それから、ソフトまで買っているのにできなかったWiiでお家カラオケも。

これでかちとなのなもつぶやかなくてよくなりそうです。

実録「切り取られた青空」

このタイトル付けると何かお月様に行かないといけない文章になってしまいそうです。

ご安心ください、全年齢大丈夫ですから。

「切り取られた青空」

大抵は作品の方が先というか、タイトルが決まらず、なかなか出せないものもあったりしたんですが、これはタイトルの方が先にありました。元々、ダイブロで昔話をした時の記事のタイトルをそのまま流用したので。

その内容は決してアブナイ恋愛事情ではなく、自身の拒過食症の話。もう25年くらい前の話ですが、私は、ある時から他人の前で食事ができなくなってしまったのです。

理由は簡単、食べるとデブになる。食べるからデブになるんだわと思われている……そういう思いに捉われてしまったのです。

職場ではコンビニの半分のおにぎりまでが限度。それでも全く食べないわけにもいかず、約二年間それを続けました。

だけど、それではお腹が空いてくる。でも、人前では食べられない。

なので、仕事を終えてから私は、テイクアウトのお弁当屋さんでお弁当などを買う、そのお弁当屋さんのある雑居ビルの屋上（勝手に入れたのです、今考えれば不法侵入です。ビルの管理人さんごめん

なさい)で食べるのが常に。ビルとビルとの隙間からちよっぴりだけ見える、抜けるような青空を見ながら、泣きながらお弁当を食べた日々を綴ったものでした。

あの時小さな空間からなかなか抜け出せなかった私と、結局パソコンから抜け出してリアルにできなかつた加奈子を重ね合わせてのネーミングでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9245x/>

神山 備の取扱説明書

2011年11月6日11時07分発行